

資料の読み取り活動を中心とした文化史の授業提案

～鎌倉文化の学習を例に～

神奈川県川崎市立平中学校 片山 真

1 はじめに

(1) 文化史の学習の課題

『中学校学習指導要領解説』では、改訂の基本方針として「基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得」、「言語活動の充実」、「社会参画、伝統や文化、宗教に関する学習の充実」の3点があげられている。また、歴史的分野の目標から、歴史の流れと時代の特色をつかむことを通して、わが国の伝統と文化の特色を考えさせる学習が重視されていることがわかる。

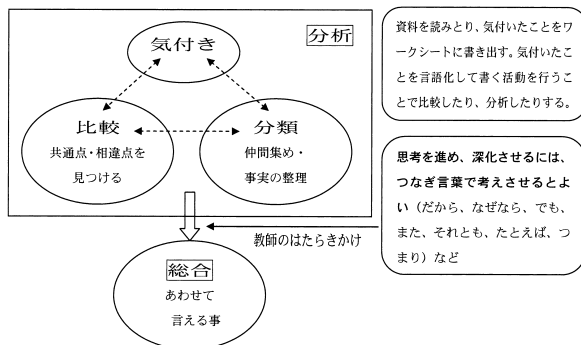
ところがこれまでの文化史の学習は、とすると政治・経済史中心の単元構成のなかで、単元の末に、その文化の特徴や具体的な美術・建築・文学などの例を表で覚える学習となりがちであったように思う。このような学習では、文化の変遷を時代の移り変わりのダイナミズムのなかでとらえることが難しく、〈文化は丸暗記→つまらない→興味をもてない〉となってしまうだろう。

このような反省をもとに、本稿では鎌倉文化成立の時代背景をとらえたうえで、その特徴を考えさせる授業を提案したい。

(2) 資料読み取り活動で考える文化史学習

学習指導要領の社会科の目標に、「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」と

ある。これを「現代社会を見る眼」＝「社会的事象を解釈する力」を育てることととらえ、歴史的分野の学習においてそのような力を育むためのアプローチとして、下図のような『社会事象に関する情報を読み取って事実を整理し、多角的な視点から考察し、証拠をあげて理論的に自分の考えを表現する』活動が有効と考えた。したがって、資料から読み取ったことを発表する活動を中心に授業を組み立てることとした。



2 単元の考え方

(1) 単元の指導観

全体では以下の認識を生徒に獲得させたい。

- ①武家政権は土地を仲立ちとした主従関係を特色とし、しだいに全国に支配を広げた。
- ②中世になると生産力が高まり、諸産業や流通・市が発達し、民衆の活動が活発になった。
- ③武家政治の展開や民衆の成長を背景として、新しい文化が生まれてきた。

中世は、地方の開発領主たちが都の軍事貴族と結びつきながら武士団を形成し、やがて彼らと天皇・貴族の利益とがぶつかるようになるなかで、土地の集団保障のしくみとして鎌倉幕府が成立した時代である。

鎌倉時代の文化は、新たな時代の担い手となっていく武士・都市商工業者や、彼らにもわかりやすい仏教の教えを説いた僧侶によってリードされていった。

このような時代背景をつかむための文化の学習を2時間で行う。はじめに仏教の変化を、次に仏教と結びついた文化の変化を扱うことで、時代背景を考えさせる。

(2) 単元構成について

本稿では、単元全体を通して、それまでの文化と鎌倉文化の違いを政治・経済・社会とのかかわりのなかでつかませるため、単元のはじめに、東大寺の大仏と南大門の金剛力士像の写真を見比べて、その違いを考えさせる。単元全体を通して資料読み取りの活動を組みこんで展開し、まとめではそれまでの学習の成果をふまえ、鎌倉文化の成立の背景を文章でまとめさせる。

単元の流れ

時	単元の題材
導入	東大寺の大仏と金剛力士像を比べてみよう
1	各地で生まれる武士団 －武士とはどのような人々だったのだろう－
2	朝廷と結びつく武士 －武士はどのようにして成長したのだろう－
3	鎌倉を中心とした武家政権 －武家政治はどのような特徴があったのだろう－
4	執権政治の展開 －承久の乱はどのような影響を与えたのだろう－
5	武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化① －なぜ新しい仏教が広まったのだろう－
6	武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化② －鎌倉文化にはどのような特色があるのだろう－
まとめ	鎌倉文化の成立の背景を説明してみよう

3 授業の展開

(1) 単元の導入

まず、『社会科 中学生の歴史』(以下、教科書) p.36の東大寺の盧遮那仏と、教科書p.55の金剛力士像の写真を見比べて、どのようなことを感じるかを話し合わせ、発表させる。資料を提示する際はデジタル教科書を使用すると有効であろう。また、生徒に資料を拡大表示したり書き込みをしたりしながら発表させることも考えられる。

生徒からは次のような意見が出るだろう。

盧遮那仏	金剛力士像
<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかな感じ ・おおざっぱな感じ ・座っている ・頼りがある ・大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ・怖そうな感じ ・筋肉が本物そっくり ・動きがある ・力強い

ここで、なぜ同じ東大寺にある像なのにこのような違いがあるのか、生徒に予想を立てさせる。

- ・像の役割が違うから
- ・つくられた時代が違うから
- ・つくった人が違うから
- ・金剛力士像は戦う人だから

盧遮那仏は奈良時代、金剛力士像は鎌倉時代につくられたものであることを説明し、どのような時代背景がこのような文化の性質の違いを生み出したのか、資料の読み取りを通じて考えさせながら第1～4時を学習していく。

(2) 第5時 武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化① (鎌倉仏教の成立)

〈導入〉 絵巻物から新しい仏教の活動を読みとる

まず、『アドバンス中学歴史資料』(以下、資料集) p.48～49を開き、絵巻物『一遍聖絵』

の2つの場面を提示する。一方には武士の館のようす、もう一方には市のようすがえがかれている。それぞれの場所についてえがかれているものや気づいたことをあげさせ、2つの資料に共通して一遍がえがかれていることに気づかせる。

武士の館	市
鷹 馬 犬 猿 堀 堀 見張り 物見やくら 矢竹 畠 馬場 武家造 畳 旅芸人 遊行僧	履物売る店 布売る店 米売る店 魚・鳥売る店 備前焼 銅銭の使用 乞食 川の中州の市 人が集まる 船・馬で荷を運ぶ

武士の館や市で一遍は何をしているのかを問うと「仏教に誘っている」、「仏教を広めている」といった意見があがる。仏教を学ぶ場所といえば寺だが、鎌倉時代には寺の外で仏教を広める活動がさかんだったことを説明する。一遍の踊念仏が代表的である。

〈展開〉平安時代の仏教と鎌倉時代の仏教を比べ、鎌倉仏教成立の時代背景を考える

教科書p.40, p.54~55や資料集p.52「⑥鎌倉時代の新仏教」で、平安時代と鎌倉時代の仏教について調べさせる。プリント1に記入

【平安時代の仏教】		【鎌倉時代の仏教】					
最澄	空海	法然	親鸞	一遍	日蓮	栄西	道元
宗	宗	宗	宗	宗	宗	宗	宗
特徴		特徴	特徴	特徴	特徴	特徴	特徴
重視すること		重視すること			重視すること	重視すること	
支持者		支持者	支持者	支持者	支持者	支持者	支持者

プリント1

し、それぞれの特徴を整理したうえで発表させたい。

- ・多くの種類の人が信仰している
- ・貴族以外の身分の低い人が信仰している
- ・念仏や題目など簡単な内容が多い

なぜ鎌倉仏教には簡単な内容（易行）が多いのかと問い、多くの人に広めやすいことに気づかせる。また親鸞の教えを説明し、貴族や従来の仏教から見れば悪人とされる、生きるためには殺生をせざるをえない人々にも救いの手がさしのべられたことに気づかせる。

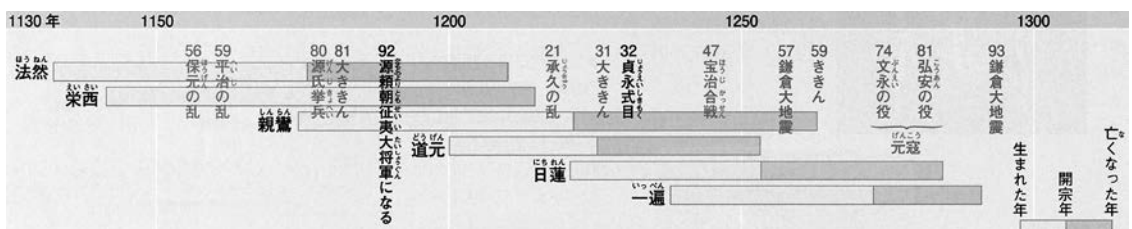
ここで、鎌倉新仏教の開祖たちが活躍したのはどのような時代だったかということを考えさせたい。資料集p.52「⑥鎌倉時代の新仏教」の図を参考にして自分の考えをプリントに記入する。この図は、開祖たちが活躍した時期とともに、戦争・ききん・災害の起こった年を記載しており、当時「戦争・ききん・災害のあいつぐ社会」であったことを裏づける根拠となる。

〈まとめ〉鎌倉時代に仏教が広く浸透した理由を考える

第5時のおわりに、鎌倉時代に貴族だけでなく、武士・商工業者・農民・浮浪者たちにも仏教が広まった理由を考えさせたい。

- ・戦乱やききんのなかで救いを求めている
- ・武士や商工業者が、貴族より実力をもつようになってきたから

(3) 第6時 武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化② (武士の気風を反映した文化)



『アドバンス 中学歴史資料』 p.52 「⑥鎌倉時代の新仏教」

〈導入〉鎌倉時代の建築と平安時代の建築を比べる

まず、教科書p.55「④東大寺南大門」の写真を提示し、感想を話し合う。

- ・ 大きい
- ・ 屋根がそり返っている
- ・ 飾りが少ない
- ・ 雄大な感じがする

東大寺南大門は高さ25メートル、横幅29メートルもあり、わが国最大の山門である。平安時代に大風で倒壊したが、鎌倉時代に再建されている。

次に教科書p.40「①平等院鳳凰堂」の写真を提示し、先ほどの南大門とどのような違いがあるかを話し合わせる。

- ・ 平等院ははなやかな感じがする
- ・ 平等院は繊細な貴族のような感じがする
- ・ 平等院の方が小さい（高さ13.5メートル）

前の時代の建築や彫刻と比べると、東大寺南大門や金剛力士像は、武士の好みにあった素朴で力強い文化のなかでつくられたことがわかる。

東大寺南大門の再建のため重源ちゅうげんが全国をまわり資金を集めたこと、源頼朝も資金を提供していること、再建には中国で建築を学んだ僧侶の技術が生かされていることにもふれておきたい（なぜ頼朝が資金提供をしたのかを考えさせてもよい）。

〈展開〉鎌倉時代の文学を平安時代の文学と比べる

『源氏物語』と『平家物語』について教科書、資料集で調べてプリント2に記入する（『源氏物語』…教科書p.41・資料集p.36～37、『平家物語』…教科書p.55, 資料集p.53）。『平家物語』については、琵琶法師の「語り」を再現した教材を視聴させたい。

『平家物語』は、源氏と平氏の戦いで戦死

源氏物語	平家物語
内容	内容
どのようにして広まったか	どのようにして広まったか？
どのような人が興味をもつ話だろう？	どのような人が興味をもつ話だろう？

プリント2

した武士などの供養のために、子孫が琵琶法師を呼んで語らせたものである。

〈まとめ〉鎌倉時代の文化の特色をまとめる

これまでの学習をもとに、鎌倉時代の文化について、前の時代からどのような変化があったかを文章で説明させる。タイムトラベルで鎌倉文化にかかわる場面を探して、イラストの解説をさせるのも単元のまとめとして有効であろう。



『社会科 中学生の歴史』 p.46～47

4 おわりに

このような資料読み取り活動を取り入れることで、①文書資料よりもイメージを直感的につかむことができる、②いろいろな見方ができるので、多角的な視点をもたせやすい、③〇〇探しなど、ゲーム感覚で取り組むことができるので楽しい、などの効果があり、文化を時代の流れのなかで感じながら学ぶことができるようになった。絵画資料の扱い方や資料を比較して読み取らせる活動の参考にしていただければ幸甚である。